

## 島根県西部で初記録となるコバネアオイトトンボ (トンボ目：アオイトトンボ科) について

皆木 宏明\*

### A new locality of *Lestes japonicus* SELYS, 1883 (Odonata : Lestidae) in Shimane Prefecture

Kohmei Minagi

コバネアオイトトンボ *Lestes japonicus* SELYSは、アオイトトンボ科に属し、日本産アオイトトンボ属4種中最小種で体長約40mmのトンボである(写真1)。日本では本州、四国、九州に広く分布し、国外では朝鮮半島と中国の一部に分布している。しかし、元々生息地が局地的である上に、近年全国的に生息地が減少していることから絶滅が懸念されており、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている(環境省野生生物課, 2006)。

また島根県では県東部と隠岐島後で確認されているが、本土では特に生息地が減少しており、現在県本土での確実な生息地は松江市鹿島町の1ヶ所のみとなっている(大浜ら, 2003; 大浜, 2004; 大浜, 2006)。また県西部では確実な記録はなく、島根県RDBで絶滅危惧Ⅰ類CR-ENに指定されている(島根県, 2004)。

本種は主として平野部に生息する止水域のトンボで、水生草本に直接産卵するため挺水植物の繁茂する植生豊かな池沼に生息する傾向があり、生息地では密に分布することも少なくない。また羽化後林床で越冬するため、後背林が必要であるとされる(島根県, 2004)。しかし、埋め立てや護岸整備等での水域の植生環境の変化により生息環境が急激に減少し、全国的に生息の危ぶまれる状況となっている。

筆者は益田市での本種の生息情報及び標本を得たので報告する。本種の県西部での正式な生息記録は初めてであり、益田市は新産地となる。

生息地は益田市遠田町にある農業用ため池で、ハス(*Nelumbo nucifera*)が池一面に繁茂し、周囲は林に面しているが、一部田畑や住宅地にも隣接している(写真2)。確認した10月28日頃はおそらく活動の末期と思われる。周辺にはため池が点在していることから植生が良好であれば、本種の生息地がさらに追加される

可能性もある。

頂いた標本は三瓶自然館で收藏している。

最後に本種の生息情報と標本を提供頂いた宮本聡史君(益田市)に深謝の意を表する。

收藏標本：コバネアオイトトンボ

2006年10月28日 宮本聡史採集 ♂1ex. ♀1ex.



写真1 コバネアオイトトンボ



写真2 生息地

\* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda-shi, Shimane Prefecture

## 引用文献

- 環境省野生生物課 (2006) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物5-レッドデータブック-[昆虫類] 248pp.
- 大浜祥治 (2004) 隠岐・島後の油井の池でコバネアオイトトンボが大発生. すかしば, 52: 13
- 大浜祥治・祖田 周・淀江賢一郎・三島秀夫 (2003) 島根県のトンボ相V: ホシザキグリーン財団研究報告第6号, 215-290
- 大浜祥治・門脇久志・祖田 周・三島秀夫・淀江賢一郎 (1996) 隠岐諸島のトンボ相-島根県のトンボ相[IV]-. すかしば (43/44), 1-26.
- 大浜祥治 (2006) 島根県のトンボ類. 新島根の生物. 日本生物教育会島根大会実行委員会, 171-187.
- 島根県 (2004) 改訂しまねレッドデータブック, 415pp.